

2025 東京経済大学 国際シンポジウム

日中・ 財政社会学研究の 最前線

■日時 2024年 8月 / 9日 (火)

■主催 東京経済大学

■共催 専修大学、浙江财经大学

■会場 東京経済大学/大倉喜八郎進一層館

定員100名・参加無料 (申込制)

開場 9:30

午前の部10:00-12:00

午後の部13:00-17:30

懇親会有

2025年7月、参議院選挙では消費税減税の是非が大きな話題となった。どのような税の在り方にするのか、国家にはどのような機能を持たせるべきなのかについて、経済学的な議論が長く行われてきたが未だに学問的にも政治的にも決着を見ない。オーストリアの財政学者ルドルフ・ゴルトシャイトは「予算はあらゆる粉飾的なイデオロギーから取り除かれた国家の骨格」として分析しようとした。ゴルトシャイトのアイディアに基づいて発展してきた学問分野が「財政社会学」である。日本は財政社会学研究の最前線を走ってきたが、近年、中国においても財政社会学研究の目覚ましい発展がある。どのように現代社会を分析するのか。理論と実証の側面から、日中の財政社会学研究の最前線を学ぶ。